

古河機械金属グループのESG



当社グループは1875年の創業以来、足尾銅鉱山における公害の顕在化など、多くの課題解決に真摯に取り組んできました。こうした先達の経験や努力は、今日の当社グループのESGやSDGs(持続可能な開発目標)への取り組みにつながっています。事業活動とCSR活動を両立させる統合思考が組み込まれた経営を推し進めていくことこそ、当社の先達が培ってきたDNAそのものであり、同時にそれは当社グループが持続可能な社会を実現し、持続的な成長を可能にするものと考えています。

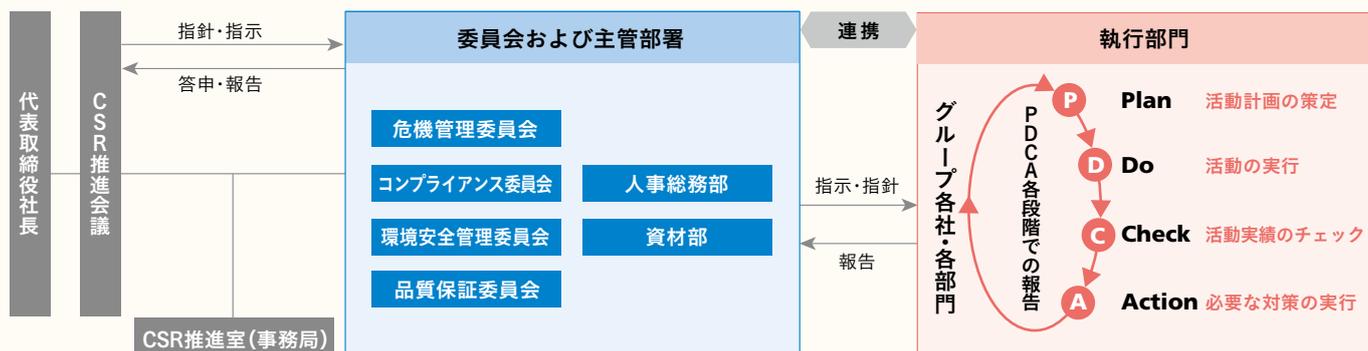
社会に必要とされる企業であり続けるために

当社グループの長期ビジョン「2025年ビジョン」ではCSVの視点を織り込んだ「マーケティング経営」による古河ブランドの価値向上とともに、経営基盤の一つとしての「CSR/ESG課題に配慮した事業運営の実践による企業価値の向上」の実現を明記しています。当社グループは、事業活動とCSR活動を両立させる統合的思考が組み込まれた経営を推進し、SDGsをはじめ、我が国における国土強靱化、生産年齢人口の減少など、ステークホルダーが抱える様々な「社会課題」の解決を目指すことで「社会価値」と「企業価値」の創造に取り組んでいきます。

当社グループのCSR推進体制

事業活動を行うための基盤をしっかりとしたものにするためにCSR活動が必要です。ガバナンスはもちろんのこと、環境や社会にしっかりと対応した基盤の上で事業活動を推進していく、これが当社グループのCSRです。当社グループでは、CSR活動を強力に推進するためにCSR推進会議を設置し、ステークホルダーの皆さまに対する責任を明確にし、CSR活動に取り組んでいます。CSR推進会議では、代表取締役社長を議長とし、CSR活動の基本方針、推進体制、活動計画の策定、活動状況の検証および評価、重点施策の立案等、CSRにおける様々な課題を審議しています。また、危機管理委員会、コンプライアンス委員会、環境安全管理委員会、品質保証委員会の4つの委員会と人事総務部、資材部の2つの部署をCSR推進会議の構成組織とし、CSR活動の執行部門である各事業会社や本部組織との連携を図り、CSR活動のPDCAサイクルを展開しています。

CSR推進体制図



ステークホルダーとの関わり

当社グループでは、CSR活動の強化と経営理念の実現に当たり、当社グループが考えるステークホルダーを下記通り定めています。それぞれのステークホルダーに対する責任を明確にし、適切な

コミュニケーション活動を通じた信頼関係の構築により、企業価値の最大化を目指します。

ステークホルダー	ステークホルダーに対する責任
お客さま	安全で高品質な製品とサービスを提供し、お客さま満足度の向上を目指します。
取引先	公正かつ公平、経済合理性に基づく安定的な調達を実践し、共存共栄できる互恵関係の維持と構築に努めます。
株主・投資家	適時かつ適切な情報開示とIR活動を通じたコミュニケーションにより、企業価値の増大を目指します。

ステークホルダー	ステークホルダーに対する責任
従業員	安全で健康な、かつ多様な人材が活躍できる働きやすい職場環境を実現し、適正な評価基準と公平な処遇を実施します。
地域社会	地域社会との共生を目指した社会貢献活動を通じて、良好な信頼関係の維持と構築に努めます。
地球環境	環境配慮型の技術と製品の開発を進め、省エネ、省資源、廃棄物削減など地球環境への負荷軽減に努め、生物多様性の保全に取り組めます。